

2020年度入試

入学試験問題集

【東京成徳大学 国際学部 国際学科】



東京成徳大学 東京成徳短期大学

目 次

AO入試1期 小論文	1
AO入試2期 小論文	2
AO入試3期 小論文	3
推薦入試1期（公募制度・指定校制度） 小論文	4
推薦入試2期（公募制度） 小論文	5
帰国子女入試 小論文.....	6
グローバル・チャレンジ入試 英語ライティング.....	7
一般入試D日程 小論文	8
出題意図.....	9

一般入試A・B・C日程につきましては、
「2020年度入試問題集
一般入試A日程・B日程・C日程
(全学部・学科共通)」をご確認ください。

● AO 入試 1 期

【小論文】（試験時間：60 分）

日本で生活する外国人にとってわかりやすい日本語とはどのようなものだと思いますか。以下の朝日新聞 2019 年 7 月 4 日（夕刊）からの記事を読み、話し言葉、書き言葉について 600～800 字で述べなさい。

やさしい日本語 4

役所は「わかりやすい」が苦手

現場へ！

「日本で生活する外国人の方へ」という副題の「生活・就労ガイドブック」がある。ネットで読める。監修は出入国在留管理庁。

「政府横断的に作成」とうたい、「執筆・校正」には内閣官房と 14 の府省庁が並ぶ。

でも、これ、やさしくない。

例えば「派遣労働者」を見ると、「派遣とは、労働者が派遣会社（派遣元）との間で労働契約を結んだ上で、派遣会社が労働者派遣契約を結んでいる会社（派遣先）に労働者を派遣し、労働者は派遣先の指揮命令を受けて働くというものです」とある。

■ ■ ■

どんな外国人を読み手に想定したのだろうか。国会でも与党議員から厳しい指摘を受けたという。

入管は「やさしい日本語版」を作ろうと、岩田一成・聖心女子大学准教授に指導を求めた。

ほとんどダメ出し状態だったらしい。「同じことを繰り返さない、主語は統一する」などの忠告を受け、参考例を渡された。

担当で在留支援課補佐官の重友和明さん（42）は「言われて、そうだと思いました。役所に入って 20 年近く、こういう指摘を受けたことがなかった」と話す。

問題はこれからだ。「外国人にとってわかりやすい表現に出来るなら、その方がいい」ということは共有されるだろう。しかし役所には役所の都合がある。正確さ、厳密性、専門用語は譲れない。くどくても説明は必要。それが当たり前でやってきた。担当者レベルでなんとか工夫しても、上が通してくれるとは限らない……。

各省庁に戻して作業してもらっている。「どこまでいけるか。やってみないと」。霞が関の「わかりやすさ力」が試されそう。

■ ■ ■

自治体に目を向けると、進んでいると言われるのが横浜市役所。広報課が主導している。大塚尚子課長（45）らの話をまとめると。

横浜には 160 の国と地域から来た人が住んでいる。現場は英語どころか生半可な多言語化では追いつかない。そこで共通語としてのやさしい日本語に着目した。

やさしい日本語を研究する庵功雄・一橋大学教授のグループや外国人ボランティアらに協力してもらい、使う語彙や文法の基準を作った。言い換え例もまとめた。

さらに書き換え支援システムも。パソコンに文章を入力すると、難しさの度合いが出たり、言い換えの例が出たりする。

例えば「作成しました」は「作りました」に、「何々しましたが」は「何々しました。しかし」と二つに分け、「となっています」は「です」と簡潔に。

とはいえ、大塚さんは「まだまだ職員全員が意識を共有しているわけではありません」という。

限られた語彙で「伝えたいこと」を表すため、「税金を払う」と書こうとしたら、担当部署から「税金は『納める』でないと困る」と抵抗があった。

役所文化は根強い。

担当の新谷恵理子さん（31）は「やさしい日本語には正解がない。話し合い、気づいてもらうようにしていきます」と話す。

● AO 入試 2 期

【小論文】（試験時間：60 分）

次の文章は 2019 年 6 月 18 日に紀伊民報のニュースサイト AGARA に掲載された記事です。この記事を読み、プラスチックごみをもたらす問題点をまとめた上で、それらに対する取り組みについてのあなたの考えを 600～800 字で述べなさい。

プラスチックごみ 足元から対策を

長野県で開かれた主要 20 カ国・地域（G 20）エネルギー・環境相会合は、海のプラスチックごみ対策の国際的な枠組み構築に合意した。プラごみ流出のメカニズムを解明し、防止につなげるとしている。一方、プラごみ削減の具体的な取り組みは、各国の自主的な判断に委ねられることになった。

プラごみが紫外線などで劣化して細かく砕けた「マイクロプラスチック」は、海の生態系に悪影響を及ぼすと懸念されている。ごみは海岸に漂着するだけでなく、その多くは海洋を漂っていたり、海底に沈んでいたりする。

しかも、その大部分は私たちの生活の中から発生している。海洋汚染を防ぐには、その排出を抑制しなければならないのだ。

国内では年間約 900 万トンのプラごみが発生している。リサイクル率は高いが、その大半が焼却による熱回収である。リサイクルを名目にした海外への輸出も多い。しかし最近、環境保護を理由に中国がプラごみの輸入を禁止したため、いま国内には未処理のプラごみがあふれている。

国民 1 人当たりの使い捨てプラごみの発生量は、アメリカに次いで世界第 2 位。ごみになっているのは、食品容器やペットボトル、レジ袋など生活に身近な製品ばかりだ。

リサイクルだけで問題は解決しない。ごみを減量すること、再び使うことも実現していかなければならない。

まずできるのは、ごみを減らすこと。外出時はマイボトルに飲み物を入れて持ち歩くことを習慣にしたい。一人一人の工夫や配慮が、使い捨てプラスチックの削減につながる。

企業と連携すれば、できることはさらに増える。産直店を運営する「プラス」（本社・田辺市宝来町）では、県の内外 26 店舗でレジ袋を有料化している。それが買い物客に定着し、9 割の買い物客がマイバッグなどを持参してレジ袋の使用を断っている。12 年間で約 5230 万枚のレジ袋を削減したという。

しかしこの動きは、他の小売店にはなかなか広がらない。県内の事業者や市民団体、行政でつくる「わかやまノーレジ袋推進協議会」に参加している事業所でも、レジ袋を有料化しているのは 1 割にも満たない。

これでは前途は暗い。国が来春から、全国の小売店でレジ袋の無料提供を禁じる法律を作ろうとしているのも無理はない。

一方で、自治体が立ち上がった例もある。例えば、20 年近く前から家庭ごみの減量に取り組んでいる徳島県上勝町では、容器包装ごみや食品ロス削減のため、必要な量を持参容器で購入できる「量り売り」の導入を図っている。

プラごみを削減することは世界的な課題である。しかし、プラごみ問題が人間の営みから生まれた以上、人間が解決するしかない。自治体、事業所、家庭がそれぞれの立場でできることを今日から始めようではないか。

● AO 入試 3 期

【小論文】（試験時間：60 分）

世界では現金決済からキャッシュレス決済への移行が進んでいる。キャッシュレス決済に関連する次の記事を読み、現金決済およびキャッシュレス決済に対するあなたの考えを 600～800 字で述べなさい。

お札や小銭といった現金を使わないキャッシュレスの決済手段が増えている。クレジットカード以外にも、カードにあらかじめお金をためて使う電子マネーやスマートフォンを使った決済手段もある。外国人観光客を増やすためにも、政府はキャッシュレス決済の普及を後押しし始めた。

ヤフーとソフトバンクが出資する「PayPay（ペイペイ）」は、スマホのアプリに自分の銀行口座やクレジットカードの番号を登録しておき、商品を買う時に QR コードを読み込んで、支払いを済ませる仕組みだ。昨年 12 月、ペイペイは利用者に総額 100 億円を還元する大型キャンペーンを展開。購入額の 20% がポイントで戻ることが SNS など話題を呼び、家電量販店ではペイペイを使う人の大行列ができた。わずか 10 日で還元額が 100 億円に達し、キャンペーンを終了するという「ペイペイ祭り」になった。

QR コード決済では、ペイペイ以外にも「LINE ペイ」や「オリガミ」などがしのぎを削る。ポイント還元やキャッシュバックなど、独白のキャンペーンを相次いで打ち出すなどし、事業者同士の主導権争いが激しくなっている。

とはいえ、日本の「現金志向」はまだ根強い。日本の現金以外での決済比率（キャッシュレス決済比率）は約 2 割と、9 割以上の韓国や 6 割の中国に大きく引き離されている。

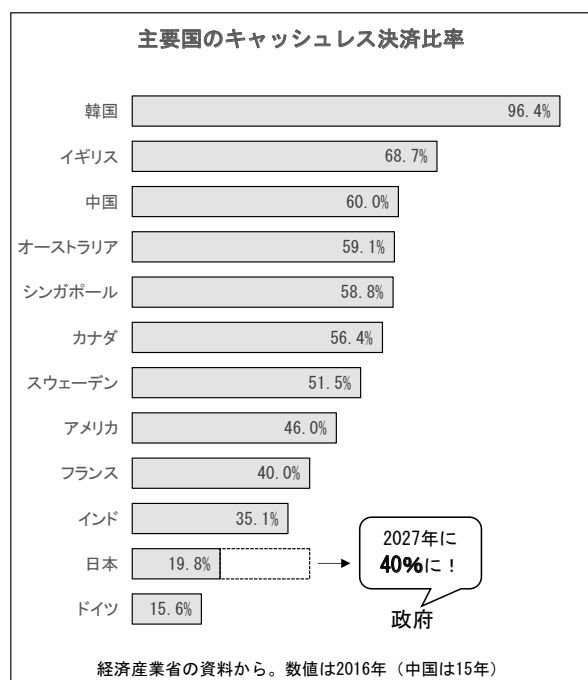
日本を訪れる外国人観光客は 6 年連続で過去最高を更新し、昨年は 3 千万人を超えた。アジアからの観光客の約 7 割は、日本でクレジットカードなどが使える場所が今よりも多ければ「もっと多くのお金を使った」（「おそらくもっと多く使った」を含む）という（日本政策投資銀行などの調査から）。

2020 年 7 月には東京五輪・パラリンピックも開かれる。そこで政府は、27 年までにキャッシュレス決済比率を 4 割に引き上げる目標を掲げる。経済産業省の幹部は「いまやらないと日本だけ『現金天国』になる」と話す。

普及に向けて政府が目をつけたのが、今年 10 月の消費増税だ。消費税率が 10% に引き上げられると、過去の増税時と同じように、消費者の買い控えなどが起きるおそれがある。そこで、政府のお金を使って、キャッシュレス決済で買い物をした人にポイントを還元して、「お得感」を感じてもらおうことにした。

具体的には、来年 6 月末までの 9 カ月間、キャッシュレスで中小店舗で買い物をした消費者に、5%（コンビニなどチェーン店は 2%）分のポイントを還元する。また、キャッシュレス決済の対応が遅れる中小店舗を対象に、決済用端末の導入費用も補助する。

こうした施策にかかるお金は、2019 年度当初予算で合計 2798 億円にもものぼる。来年度分も含めると 9 カ月間で約 4 千億円近い税金をつぎ込む。ただ、政府がこうした普及策に取り組むのは初めてで、どの程度の効果が出るのかはまだ見通せない。



●推薦入試1期（公募制度／指定校制度）

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章を読み、異文化間コミュニケーションについての筆者の考えをまとめなさい。また、異文化理解の重要性について、あなたの考えを具体的に述べなさい。（600～800字）

異文化間コミュニケーションそのものは、近年になって突然起こった現象ではなく、あくまでも、古い歴史を持ったものなのである。このため、世界の歴史は、「異文化に住む人間同士のコミュニケーションの歴史であった」としても、決して過言ではなさそうである。

とはいえ、今日ほど、異文化間コミュニケーションの重要性が強調されるようになった時代は、おそらくこれまでにあるまい。それは、科学・技術の発達が、時間と空間の関係を圧殺し、世界を縮小したことで、異文化に住む人びとのつながりを、急速に強め始めたからである。

まず、大型ジェット機が、世界のあらゆる場所への急速な物理的移動を可能にした。

今日、地球上では、かつての民族大移動のときよりもはるかに多くの人々が、いともたやすく、異文化への出入りを行っている。彼らは、外交官であり、ビジネスマンであり、研究者であり、留学生であり、旅行者であるが、なかでも、とりわけ、海外へ進出する旅行者たちの数は、毎年、上昇の一途をたどっている。我が国でも、海外渡航者の数は、年々、その記録を更新する一方、海外からの旅行者数もまた、年ごとにふえてきている。このため、必然的に、人びとの、異文化と接触する機会が、急速に増してきたわけなのである。

これに加えて、目ざましく発達した通信技術が、世界を、ひとつの、巨大なコミュニティに変貌させつつある。

現在、世界のどこかで起こった事件は、アツという間のスピードで、世界中の国々に伝わる。つまり、高度情報化の時代とは、地球上の人々が、情報というものを、ほとんど、同時に共有しうる時代なのである。しかも、金融、エネルギー、環境の破壊といった問題は、もはや、国単位で処理できるものではなくなってきた。問題の解決には、やはり、国際協調と対話が必要なのであり、この意味において、今や、世界は、ますます、相互依存の方向へ進んでいるわけである。また、このような傾向が、ビジネスを、必然的に、グローバル化してきていることはいうまでもない。投資、市場開発、工場の設立といったことが、今日では、世界的なネットワークの中で展開されるようになったのであり、この意味からも、異なった人びとの行動を正しく理解することが、きわめて、重大な関心事となってきたわけである。

このため、アメリカなどでは、いちはやく、Applied Intercultural Management AssociationとかCenter of Research and Educationといった、企業の経営陣に異文化間コミュニケーションの技術を教える、トレーニング・センターや組織が生まれているのだが、我が国はどうかといえば、異文化を理解するといった認識は、まだ、驚くべきほど低いのである。そして、日本人の中には、いまだ、「英会話」さえできれば、「外人」とのコミュニケーションはスムーズにできると、無邪気に信じている人たちが多い。だが、異文化間コミュニケーション研究の重要性を真先に気付いたのは、実のところ、その英語を母国語とする、アメリカ人だったのである。

ここ4分の1世紀の間、アメリカは、アフリカ、アジア、中近東、ラテン・アメリカでの国際交渉において、かすかすの失敗をかさねてきた。それは、強大な軍事力と経済力をバックに、彼らが、異文化の理解を怠り、自国文化のみを押しつけてきたからである。その結果、この国は、政治・経済の両舞台で、他国からの非難を浴び、絶対的、かつ相対的にその力を弱めることとなったわけだが、そこにいたって、アメリカは、ようやく、異文化という問題に目を向け始めたのである。

●推薦入試 2 期（公募制度）

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章は、2019 年 7 月 2 日に「The Asahi Shimbun GLOBE+」に掲載された記事の一部です。キム・カーダシアンさんの一連の行動から、何が問題だと考えられますか。また、その問題について、あなたの意見を述べなさい。（600～800 字）

キム・カーダシアンが起こした「Kimono」ブランドの波紋

サンドラ・ヘフェリン

先月 6 月 25 日に米国人女優でインフルエンサーのキム・カーダシアンさんが自身が立ち上げたシェイプウェア（補正下着）ブランドを Twitter で紹介し、ブランド名が Kimono であることを発表したと同時に、同氏がこの Kimono というネーミングについて商標登録の出願を行っていたことがわかり、波紋が広がりました。

商標登録されてしまえば、ニッポンの伝統的な着物を外国で販売する際に問題が起きるのではないかという懸念はもとより、「下着ブランドとしての Kimono」が世界に広まると、将来的に外国人が Kimono という言葉を聞いた時に「ニッポンの伝統ある民族衣装」ではなく、「キム・カーダシアンの下着」を思い浮かべてしまう可能性がある、と心配の声があがっていました。Twitter では #KimOhNo のハッシュタグのもと同ブランドのネーミングに反対する意見が多数見られ、署名サイト change.org では「着物は日本の文化。キム・カーダシアン・ウェストの“KIMONO”商標登録に No! #KimOhNo」という名のもと署名活動が行われ現在 13 万人以上が署名をしています。

結果的に、キム・カーダシアンさんは、「慎重に考えた結果、下着ブランドは新しい名前でも立ちあげます」というコメントを発表しました。新しいブランド名は 7 月 2 日朝 6 時現在まだ発表されていませんが、今回この Kimono 騒動について振り返ってみたいと思います。

Kimono という名前は「文化の盗用」だという声

着物は日本の伝統的な民族衣装であり、着物が「祖母から孫に受け継がれること」も珍しくありません。品質がよく世代を越えて長く着られるものですが、もしキム・カーダシアンさんの下着ブランドが Kimono の名のもと世界に広く浸透してしまえば、今後、たとえば日本人女性が外国人との会話の中で「着物を祖母からいただいたの」と話した時に、相手の外国人から「この女性は祖母から下着をもらったのだ」と勘違いされてしまう可能性があります。あまり考えたくないことですが、極論をいうと、そういうことになりかねない状況だったのです。

キム・カーダシアンさんが自身の補正下着ブランドに当初 Kimono という名前をつけた背景はよくわかりませんが、一説には自身のファーストネームが Kim であることから Kimono になったのではないかという説もあります。しかしたとえそうだとすると、多くの人から反対の声が上がる前に、日本の伝統ある着物のことを考慮しなかったのは、「異文化に対して無関心」だったといわざるを得ません。

キム・カーダシアンさんは以前、コーンロウと呼ばれるビーズの入った編み込みスタイルの髪型をした自身の姿を SNS で披露した際に、「ポー・デレク風の髪型にしてみたの」と投稿し物議を醸した過去があります。キム・カーダシアンが書いたポー・デレクとは白人の女優で、かつて 70 年代に「10」（テン）という映画の中で、この編みこみスタイルを披露しています。しかし元々この髪型に関しては、それよりも先に多くの黒人がしていたという背景があり、アメリカではこの髪型が「黒人文化」であるという共通認識があります。そのため、もともとは黒人がやっていた髪型を、あたかも上記の白人女優が発祥の髪型であるかのような書き方をしたキム・カーダシアンさんに対してアメリカでは「文化の盗用だ」という声が多くあがりました。

また今年 4 月にキム・カーダシアンさんは夫と教会に行く際に額に宝石入りのヘッドピースをつけましたが、これはもともとインドの結婚式の際に新婦が額につける伝統的なアクセサリーである（女性は結婚式の際に初めてこのヘッドピースをつけるのが伝統）ため、キム・カーダシアンさんが「ファッション性」のみを重視し、インドの文化に配慮しなかったことに対して批判の声があがっていました。

この一連の流れを見てみると、今回の Kimono 騒動に関しても「ファッションやおしゃれには興味があるけど、他の国の文化のことを深く知ろうとしない」姿勢が騒動の原点だといえるでしょう。

〈以下省略〉

●帰国子女入試

【小論文】（試験時間：60分）

以下の文章は、2019年7月2日に「The Asahi Shimbun GLOBE+」に掲載された記事の一部です。キム・カーダシアンさんの一連の行動から、何が問題だと考えられますか。また、その問題について、あなたの意見を述べなさい。（600～800字）

キム・カーダシアンが起こした「Kimono」ブランドの波紋

サンドラ・ヘフェリン

先月6月25日に米国人女優でインフルエンサーのキム・カーダシアンさんが自身が立ち上げたシェイプウェア（補正下着）ブランドをTwitterで紹介し、ブランド名がKimonoであることを発表すると同時に、同氏がこのKimonoというネーミングについて商標登録の出願を行っていたことがわかり、波紋が広がりました。

商標登録されてしまえば、ニッポンの伝統的な着物を外国で販売する際に問題が起きるのではないかという懸念はもとより、「下着ブランドとしてのKimono」が世界に広まると、将来的に外国人がKimonoという言葉を見た時に「ニッポンの伝統ある民族衣装」ではなく、「キム・カーダシアンの下着」を思い浮かべてしまう可能性がある、と心配の声があがっていました。Twitterでは#KimOhNoのハッシュタグのもと同ブランドのネーミングに反対する意見が多数見られ、署名サイトchange.orgでは「着物は日本の文化。キム・カーダシアン・ウェストの“KIMONO”商標登録にNo! #KimOhNo」という名のもと署名活動が行われ現在13万人以上が署名をしています。

結果的に、キム・カーダシアンさんは、「慎重に考えた結果、下着ブランドは新しい名前でも立ちあげます」というコメントを発表しました。新しいブランド名は7月2日朝6時現在まだ発表されていませんが、今回このKimono騒動について振り返ってみたいと思います。

Kimono という名前は「文化の盗用」だという声

着物は日本の伝統的な民族衣装であり、着物が「祖母から孫に受け継がれること」も珍しくありません。品質がよく世代を越えて長く着られるものですが、もしキム・カーダシアンさんの下着ブランドがKimonoの名のもと世界に広く浸透してしまえば、今後、たとえば日本人女性が外国人との会話の中で「着物を祖母からいただいたの」と話した時に、相手の外国人から「この女性は祖母から下着をもらったのだ」と勘違いされてしまう可能性があります。あまり考えたくないことですが、極論をいうと、そういうことになりかねない状況だったのです。

キム・カーダシアンさんが自身の補正下着ブランドに当初Kimonoという名前をつけた背景はよくわかっていませんが、一説には自身のファーストネームがKimであることからKimonoになったのではないかという説もあります。しかしたとえそうだとすると、多くの人から反対の声が上がる前に、日本の伝統ある着物のことを考慮しなかったのは、「異文化に対して無関心」だったといわざるを得ません。

キム・カーダシアンさんは以前、コーンロウと呼ばれるビーズの入った編み込みスタイルの髪型をした自身の姿をSNSで披露した際に、「ポー・デレク風の髪型にしてみたの」と投稿し物議を醸した過去があります。キム・カーダシアンが書いたポー・デレクとは白人の女優で、かつて70年代に「10」（テン）という映画の中で、この編みこみスタイルを披露しています。しかし元々この髪型に関しては、それよりも先に多くの黒人がしていたという背景があり、アメリカではこの髪型が「黒人文化」であるという共通認識があります。そのため、もともとは黒人がやっていた髪型を、あたかも上記の白人女優が発祥の髪型であるかのような書き方をしたキム・カーダシアンさんに対してアメリカでは「文化の盗用だ」という声が多くあがりました。

また今年4月にキム・カーダシアンさんは夫と教会に行く際に額に宝石入りのヘッドピースをつけましたが、これはもともとインドの結婚式の際に新婦が額につける伝統的なアクセサリーである（女性は結婚式の際に初めてこのヘッドピースをつけるのが伝統）ため、キム・カーダシアンさんが「ファッション性」のみを重視し、インドの文化に配慮しなかったことに対して批判の声があがっていました。

この一連の流れを見てみると、今回のKimono騒動に関しても「ファッションやおしゃれには興味があるけど、他の国の文化のことを深く知ろうとしない」姿勢が騒動の原点だといえるでしょう。

〈以下省略〉

●グローバル・チャレンジ入試

【英語ライティング】（試験時間：30分）

There are many people who do volunteer work both in Japan and around the world. They are eager to help others in many ways. Write your opinion about why people help others without being paid, and why volunteer work is important. You should write 200-250 words.

●一般入試 D 日程

【小論文】（試験時間：60分）

次の東京新聞 2019 年 12 月 15 日朝刊掲載の記事を読み、外国人児童の不就学が地域社会にどのような影響を及ぼすか、またこの問題に対してどのような対応が必要か、あなたの考えを 600～800 字で述べなさい。

改正入管法 1 年 不就学 2 万人

外国人支援 自治体任せ

学齢期の外国籍の子ども約 2 万人が、学校に通えず放置されている。教育基本法が子どもに教育を受けさせる義務を明記しているのは「国民」で、外国人を除外している。各自治体が任意で就学を促しているが、対応にばらつきがあり、「不就学」の児童・生徒が生まれがちだ。外国人労働者のさらなる受け入れ拡大を決めた改正入管難民法の成立から 1 年。関係者からは、法改正や支援の仕組みづくりを求める声が強まっている。

2018 年 12 月に改正入管難民法が成立した当時から、専門家らの間で、外国人の子どもの不就学増加への懸念が指摘されていた。文部科学省は今年 5 月～6 月に初めて、全国調査を実施。小中学校だけでなく外国人学校にも通っていない、不就学の可能性がある外国人の子どもが、1 万 9,654 人いることが分かった。外国人受け入れ拡大の一方で、生活者として迎える体制の不備が示された。

外国人は子どもを就学させる義務がなく、対応は各自治体に委ねられている。愛知淑徳大の小島祥美准教授（教育社会学）によると、転入手続きにきた外国人家族に学齢期の子どもがいる場合、就学を促す例が一般的だが、方法などは担当者任せで、全く促さない場合も問題にならないという。

小島氏は「法律上義務でないため、就学促進が行政の『職務』になっていない。自治体の職務を定める『分掌規程』に、『外国人の子どもの就学支援・教育の充実』が職務であることを明記するよう、国が促す必要がある」と改善策を提言する。

実態把握も遅れている。文科省の同調査では、対象の 1,741 市区町村に、就学状況が不明または不就学の外国人の子どもに関して状況把握や就学促進をしているか聞いたところ、「特に実施していない」が 65.3%を占めた。

行政の対応遅れを、民間が補う例も少なくない。NPO 法人「青少年自立援助センター」（東京都福生市）は 9 年前に定住外国人の子どもの支援事業を始めた。

これまでに 35 カ国の約 750 人が日本語などを学んだ。自治体の就学支援や学校の受け入れ態勢が不十分で就学できなかった子どもらだ。

萩生田光一文科相は 5 日の参院文教科学委員会で、「外国人の子どもたちが共生社会の一員として未来を切り開けるようにするには、教育機会を提供することが極めて重要だ」と、不就学の子どもが学校に通える環境整備を進める考えを示した。

〈表〉不就学の可能性がある外国籍の子どもが多い都道府県

※単位：人。文科省調査（2018 年 5 月時点）

東京	7898
神奈川	2288
愛知	1846
千葉	1467
大阪	1457
埼玉	729
静岡	660
京都	455
群馬	412
兵庫	373
茨城	365
岐阜	239
宮城	203
福岡	176
沖縄	174
広島	114
：	：
合計	19654

●出題意図

AO入試1期【出題意図】

1. 問題文選定理由

AO入試1期の試験問題では、日本で生活する外国人が年々増える中で、その人たちとのコミュニケーションを円滑に進めるために、私たちはどのような日本語を使用すればよいのか、またそうするためにはどのような工夫が必要なのか志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解

課題文中にある「正確さ」「厳密性」「専門用語」「英語」「多言語」「共通語」「語彙」「文法」「言い換え」「簡潔」といったキーワードが適切に把握されているかを通じて、志願者が本文の内容を理解しているかを問う。

3. 問題意識

日本語を母語としない人たちに日本語を正確にかつ簡潔に伝えるための具体的な方法を解答してもらうことによって、志願者の問題意識や考えを問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

AO入試2期【出題意図】

1. 問題選定理由

プラスチックごみによる海洋汚染の問題は年々深刻化しており、その解決のためにグローバルな視点から一層の努力が求められている。このような国際的な問題に対する認識とともにどのような解決方法が可能なのかについて問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解のポイント

プラスチックごみが紫外線などで細かく砕けた「マイクロプラスチック」は海の生態系に悪影響を及ぼしていること、日本では年間900万トンのプラスチックごみが発生しており、国内のリサイクルだけでは処理できていないこと、また、今後はプラスチックごみの削減について自治体、企業、家庭それぞれのレベルで高い問題意識をもって取り組む必要があることについて理解を求める。

3. 問題意識

国際的に問題になっているプラスチックごみの削減については、政府や自治体の取り組みだけでは問題解決が不可能であり、生産者である企業及び消費者である市民一人一人が問題意識を高め行動することが重要であるとの認識を持つ必要がある。

4. 課題発見・問題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく課題発見・問題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。

AO 入試 3 期【出題意図】

1. 問題文選定理由

世界的にキャッシュレス化の動きが加速している一方で、日本はキャッシュレス決済比率が依然として低いままである。日本で暮らす中ではあまり気付かない、日本と外国との違いやそこから生じる問題点を考えさせることにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解のポイント

世界ではキャッシュレス化が進んでいる。日本でもペイペイや LINE ペイなど各企業で独自のキャッシュレス決済の仕組みを作り、事業者同士の主導権争いが激しくなっている。一方で、日本の現金志向はまだまだ根強く、キャッシュレス決済比率が約 2 割と低いと、外国人観光客の日本における消費行動にも影響を及ぼしている。このような中で政府が税金を投与してまでキャッシュレス決済の普及を後押し始めたのは経済のグローバル化と大きな関わりがあることを理解する必要がある。

3. 問題意識

現金決済とキャッシュレス決済のメリット・デメリットについてグローバルな視点など様々な角度から考えることにより、志願者の問題意識や考えを問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求めた。

推薦入試 1 期（公募制度・指定校制度）【出題意図】

1. 問題文選定理由

人類の歴史が異文化との接触の歴史であったことを認識し、改めて異文化理解、異文化間コミュニケーションの重要性を考えることにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解のポイント

科学技術の発達とともに、時間的・空間的に世界が縮小し、異文化との接触は当たり前のこととなったにもかかわらず、それらを正しく認識し異文化に敬意を払わなければ、深刻な問題が発生する可能性がある。身近な異文化間コミュニケーションから国家間における関係などにも目を向け、大国アメリカと言えども、異文化理解をないがしろにしては国際交渉を進められなかったことなどから、異文化理解の重要性について理解する必要がある。

3. 問題意識

異文化は外国だけでなく身近なところにも存在しているということについて、また、自分化と他文化の関係について、志願者の問題意識や考えを問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明し展開する力を求めた。

推薦入試2期（公募制度）【出題意図】

1. 問題文選定理由

アメリカ人女優でインフルエンサーのキム・カーダシアンさんが起こした「Kimono」騒動やその他の一連の行動から読み取れる異文化理解の重要性について志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解のポイント

着物が日本の伝統的な民族衣装であることの意味を考えずに、自身が立ち上げた補正下着のブランドを「Kimono」という名前で商標登録しようとしたこと、また、コーンロウと呼ばれる髪型やインドのヘッドピースに関する一連の行動から広がった波紋について、他国の文化を尊重しようとしないう姿勢の問題点を理解しているかを問う。

3. 問題意識

他の国の文化に配慮しなかったことから起こる問題について、異文化理解の観点やグローバルな視点などさまざまな角度から考えることにより、志願者の問題意識を問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明し展開する力を求める。

帰国子女入試【出題意図】

1. 問題文選定理由

アメリカ人女優でインフルエンサーのキム・カーダシアンさんが起こした「Kimono」騒動やその他の一連の行動から読み取れる異文化理解の重要性について志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解のポイント

着物が日本の伝統的な民族衣装であることの意味を考えずに、自身が立ち上げた補正下着のブランドを「Kimono」という名前で商標登録しようとしたこと、また、コーンロウと呼ばれる髪型やインドのヘッドピースに関する一連の行動から広がった波紋について、他国の文化を尊重しようとしないう姿勢の問題点を理解しているかを問う。

3. 問題意識

他の国の文化に配慮しなかったことから起こる問題について、異文化理解の観点やグローバルな視点などさまざまな角度から考えることにより、志願者の問題意識を問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく問題発見・課題解決力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明し展開する力を求める。

グローバル・チャレンジ入試【出題意図】

ライティングのテーマとしては、高校生が比較的容易に考えを述べられる「ボランティア活動」とした。英語の語彙、語法、文法に関わるスキルや、表現力、パラグラフ構成力など、表現力全般についての力を測る。

一般入試Ⅱ日程【出題意図】

1. 問題文選定理由

外国人児童の教育問題をどのようにとらえているのか、彼らが私たちの地域社会にどのような影響を及ぼすのか、この問題に対してどのような対応が必要なのかを志願者に問うことにより、本学部が目指すグローバル人材の資質を測る。

2. 内容理解

問題文に記された外国人児童の就学の現状と課題を理解しているかを問う。

3. 問題意識

外国人児童の不就学は彼ら自身の問題に留まらず、日本社会にも大きな影響を及ぼす問題でもある。現在のみならず将来をも含む問題としてとらえてもらうことによって、志願者の問題意識や考えを問う。

4. 問題発見・課題解決力、表現力

志願者には、グローバルな視点に立った柔軟な発想に基づく課題発見・課題解決能力、自らの言葉で表現する力、論理的に説明、展開する力を求める。